

『体外循環技術』 投稿原稿のしおり

日本体外循環技術医学会・編集委員会 2010年10月1日

本稿は、医学論文を執筆するために必要と考えられる医学論文の種類、一般的な実験的研究論文の構成、論文を書くときの正しい漢字および仮名書きにする語、単位記号の表記法を示しています。そして今回より、論文を会誌に掲載するにあたって、専門用語などを統一して表記することになりました。原稿を提出されるときは、本稿を参考に執筆、投稿して下さるようお願い致します。

・医学論文の種類

医学論文は、一般的に次の6項目に分類されています。以下に、それら論文の内容について記載します。

1. 原著(Original)

自分自身の研究成果をまとめたものを原著といたします。これには学位論文などがあり、新しい知見を含むことが必要です。

2. 総説(Review)

ある研究課題についての歴史的展望と現在の動向を紹介するものを総説といたします。多くの参考文献を添えるのが特徴です。

3. 症例報告(Case Report)

珍しい臨床研究や剖検例、新薬の使用経験、特定疾患の統計などが主で、考察のために多少の文献が必要です。

4. 臨床講義および解説

患者の実例を最初に述べ、その疾患診断、治療法などを総説的に説明したものを臨床講義および解説といたします。これらは、症例報告と総説の中間に位置します。

5. 速報(Short Communication)

雑誌の速報欄、短報欄、投書欄などに載せるもので、短い原著に近いものを速報といたします。

6. 抄録(Abstract)

学会の講演要旨が代表的なもので、科学研究費報告書なども一種の抄録です。一般的には時数に制限があります。

・論文の構成

実験的研究の論文には、各章野標題として下記の用語が通常用いられています。以下に、各標題の執筆する内容について説明します。

1. 論文題名(Title)

題名だけで内容がほぼ想像できて簡潔なものが理想です。題名に副題(Subtitle)を付けることはなるべく避けたほうが良いとされていますが、副題を付けることにより、論文全体の内容を示す場合もありますので、絶対に不必要とはいえません。

2. 要旨(Synopsis)

実験やシステムの開発、新しい技術、理論などを本文とはまったく独立のものとして書きます。ここには議論や解釈、文献の参照、図表は使いません。論文の中心課題と本文の要点を手短かに書いた文章でまとめます。

3. 索引用語(Key Words, Index Terms)

本文の内容に関係ある単語を数個列記します。単語は題名に含まれていなくて、論文の要素として重要なものが良いとされています。

4. 緒言(Introduction)

研究の目的や目標(新しい理論や原理の研究、原理の応用、装置やシステムの開発や改良など)、問題の定義、論文で取り扱う範囲、論文の背景、歴史的概観、関連研究などを述べます。研究史を含ませることがあり、研究方法が新しく開発されたものであれば詳しく説明します。

緒言の代わりに『まえがき』、『はじめに』を使用することもあります。ただし、これに対応して『まとめ』、『おわりに』を用います。

5. 研究方法(材料と方法; Materials and Methods)

研究計画、研究の状態や条件、研究対象、対象を選ぶ方法、介入方法、すべての観察項目の明示、データ評価の統計学的処理法について詳しく記載します。

6. 研究成績(研究結果, Results)

客観的データで、文章としては過去形に書き、本文のほかに図表を含みます。

7. 考察(Discussion)

他人の成績(文献)と比較しながら、自分の成績の意味を説明し、自分の考えを主観的記述で現在形に書きます。

8. 結論(Conclusion)

実験成績と考察のまとめを主としますが、実験方法に少しふれる場合もあります。しばしば箇条書きにされます。

統括的なことを述べ、序論で提起した問題に本論でどのように答えたかをまとめるとともに、理論や結果の正当性、有意性(利点だけでなく欠点も含む)、他の研究と違い、応用性、今後の課題などを述べます。

『結論』は、独自の理論や原理を扱った論文に用い

ることが多く、『まとめ、おわりに』は、解説的、一般的あるいは実用的な論文などで、考察の結果を一言で表現できる場合や、緒言で何か疑問を提起し、それに対して Yes, No で結ぶ時に使われています。

9. 文献(References, Literature)

論文に関係し、本文中で引用したものを書きます。文献は全編を通じて出てきた人名とその論文の出所を

記録します。

漢字および仮名書きにする語について

論文を書くにあたり、一般的に仮名書きにする語、なるべく仮名書きにする語、原則として漢字を使用する語、および正しい送り仮名を表にまとめました。論文を執筆されるときに参考にしてください。

【漢字を用いてはいけない例】

| | | | | | |
|------|--------|-----|--------|-----|--------|
| 宛も | (あたかも) | 即ち | (すなわち) | 筈 | (はず) |
| 或る | (ある) | 総て | (すべて) | 殆ど | (ほとんど) |
| 如何なる | (いかなる) | 折角 | (せっかく) | 略 | (ほぼ) |
| 何れ | (いずれ) | 其の | (その) | 寧ろ | (むしろ) |
| 所謂 | (いわゆる) | それ等 | (それら) | 迄 | (まで) |
| 於いて | (おいて) | 先ず | (まず) | 勿論 | (もちろん) |
| 凡そ | (およそ) | 為に | (ために) | 尤も | (もともと) |
| 及び | (および) | 唯 | (ただ) | 以て | (もって) |
| 却って | (かえって) | 只 | (ただ) | 矢張り | (やはり) |
| 此処 | (ここ) | 忽ち | (たちまち) | 稍 | (やや) |
| 茲に | (ここに) | 兎に角 | (とにかく) | 由って | (よって) |
| 如く | (ごとく) | 丈 | (だけ) | 判る | (わかる) |
| 之 | (これ) | 誰 | (だれ) | 吾 | (わが) |
| 毎に | (ごとに) | 乃至 | (ないし) | 僅かに | (わずかに) |
| 然し | (しかし) | 尚 | (なお) | 亘り | (わたり) |
| 併し | (しかし) | 何故 | (なぜ) | | |
| 頗る | (すこぶる) | の外 | (のほか) | | |

【なるべく仮名書きする語】

| | | | | | |
|-----|--------|-----|---------|------|--------|
| 且つ | (かつ) | その位 | (そのくらい) | 出来る | (できる) |
| が在る | (がある) | それ故 | (それゆえ) | で良い | (でよい) |
| が無い | (がない) | 但し | (ただし) | 又は | (または) |
| 殊に | (ことに) | 就いて | (ついて) | 全く | (まったく) |
| する事 | (すること) | と言う | (という) | の通り | (のとおり) |
| する時 | (するとき) | の処 | (のところ) | の様に | (のように) |
| する程 | (するほど) | と共に | (とともに) | 若しくは | (もしくは) |

【原則として漢字を使用する語】

| | | | | | |
|-----|--------|-----|--------|-----|--------|
| 明るく | (あかるく) | 現に | (げんに) | 常に | (つねに) |
| 至って | (いたって) | 更に | (さらに) | 特に | (とくに) |
| 一切 | (いっさい) | 去る | (さる) | 突然 | (とつぜん) |
| 大いに | (おおいに) | 少し | (すこし) | 何 | (なに) |
| 恐らく | (おそらく) | 既に | (すでに) | 並びに | (ならびに) |
| 及ぼす | (およぼす) | 実に | (じつに) | の場合 | (のばあい) |
| 必ず | (かならず) | その際 | (そのさい) | 初めて | (はじめて) |

| | | |
|--------------|-----------|-------------|
| 彼 (かれ) | 大抵 (たいてい) | 果たして (はたして) |
| 辛うじて (かるうじて) | 絶えず (たえず) | 再び (ふたたび) |
| 来たす (きたす) | 互いに | 最も (もっとも) |
| 来る (きたる) | 例えば | 専ら (もっぱら) |
| 極めて (きわめて) | 次いで | 我が国 (わがくに) |
| 概して (がいして) | 次に | 私 (わたし) |
| 偶然 (ぐうぜん) | 努めて | 我々 (われわれ) |

”最も”は最上級を表すときは漢字で、”ただし”の意味で使用するときには仮名書きにします。

”並びに”、”又は”などの接続詞を漢字の直後に使用すると、漢字の続きとして読まれる恐れがありますので、漢字直後の場合だけ仮名書きにします。

【正しい送り仮名】

| | | |
|--------------|--------------|--------------|
| 明らかに (あきらかに) | 潤す (うるおす) | 賜る (たまわる) |
| 鮮やか (あざやか) | 補う (おぎなう) | 慎む (つつしむ) |
| 味わう (あじわう) | 幼い (おさない) | 冷たい (つめたい) |
| 暖かい (あたたかい) | 恐ろしい (おそろしい) | 貫く (つらぬく) |
| 新しい (あたらしい) | 陥る (おちいる) | 滞る (とどこおる) |
| 侮る (あなどる) | 顧みる (かえりみる) | 伴う (ともなう) |
| 危ない (あぶない) | 輝く (かがやく) | 懐かしい (なつかしい) |
| 謝る (あやまる) | 偏る (かたよる) | 働く (はたらく) |
| 誤る (あやまる) | 必ず (かならず) | 翻す (ひるがえす) |
| 表す (あらわす) | 汚い (きたない) | 短い (みじかい) |
| 著わす (あらわす) | 異なる (ことなる) | 難しい (むずかしい) |
| 現れる (あらわれる) | 断る (ことわる) | 群がる (むらがる) |
| 著しい (いちじるしい) | 盛んに (さかんに) | 珍しい (めずらしい) |
| 偽る (いつわる) | 従う (したがう) | 専ら (もっぱら) |
| 承る (うけたまわる) | 少ない (すくない) | 軟らか (やわらか) |
| 失う (うしなう) | 速やかに (すみやかに) | 煩う (わずらう) |
| 促す (うながす) | 平らに (たいらに) | |
| 占う (うらなう) | 確かめる (たしかめる) | |

『体外循環技術』で使用している単位記号

長さ

| | |
|------------------|----|
| キロメートル | km |
| メートル | m |
| センチメートル | cm |
| ミリメートル | mm |
| ミクロン(10-4cm) | μ |
| ミリミクロン(10-7cm) | mμ |
| オングストローム(10-8cm) | |

面積・体積

| | |
|-----------|-----------------|
| 平方メートル | m ² |
| 平方センチメートル | cm ² |
| 立方メートル | m ³ |
| 立方センチメートル | cm ³ |

容積

| | |
|----------|----|
| キロリットル | kL |
| リットル | L |
| デシリットル | dL |
| ミリリットル | mL |
| マイクロリットル | μL |

質量

| | |
|------------|----|
| トン(メートルトン) | t |
| キログラム | kg |
| グラム | g |
| ミリグラム | mg |
| マイクログラム | μg |

圧力

| | |
|---------------|--------------------|
| 平方センチ当たりキログラム | kg/cm ² |
| 平方センチ当たりの重量 | gw/cm ² |
| 水銀柱メートル | mHg |
| 水銀柱ミリメートル | mmHg |
| 水中ミリメートル | mmH ₂ O |

速さ

| | |
|-----------|--------|
| 毎時キロメートル | km/hr |
| 毎秒センチメートル | cm/sec |

回転数

| | |
|--------|-----|
| 1分間回転数 | rpm |
|--------|-----|

率

| | |
|--------|---|
| パーセント | % |
| パーミル | ‰ |
| パーデシミル | ‱ |

時間

| | |
|-----|------|
| 年 | yr |
| 月 | mon |
| 日 | day |
| 時 | hr |
| 分 | min |
| 秒 | sec |
| ミリ秒 | msec |

度数

| | |
|-------|---|
| 度(角度) | ° |
| 分(角度) | |
| 秒(角度) | |

温度

| | |
|----------|--|
| 温度(摂氏) | |
| 温度(華氏) | |
| 温度(絶対温度) | |

熱量

| | |
|--------|------|
| カロリー | cal |
| キロカロリー | kcal |

濃度

| | |
|---------|-----|
| モル | mol |
| 規定 | N |
| 100万分の1 | ppm |

・ 会誌掲載にあたり統一して表記する用語

論文を会誌に掲載するにあたって、専門用語などを統一して表記することになりました。日本語(漢字)表記を基本に、適切な漢字表記がない場合はカタカナ表記としました。カタカナ表記が適切でない場合に限り英語表記としました。カタカナの長音については、内閣告示第二号を参考にしています。従来は一般的に「2音の用語は長音符号を付け、3音以上の用語の場合は(長音符号を)省くこと」というルールが採用されていましたが、新聞や放送が概ね内閣告示第二号の『外来語の表記』を参考にしていることから、当医学会でも長音符号を付けることを原則とします。別紙に用語用例をまとめましたので、論文を執筆される際の参考にしてください。